

219  
景福

# 増える認知症高齢不明者

認知症の疑いのある高齢行方不明者の増加が社会的な問題となつてゐる。県内でも昨年、県警へ行方不明の届け出があつたのは九十六人。住民対象の訓練や自治体による認知症高齢者の登録制度が広がつてゐる。

### II 関連②面

厚生労働省によると、二〇一二年時点で、全国の認知症患者や予備軍は六十五歳以上の四人に一人とされる。県内では患者の増加に伴つて行方不明者の届け出も増えてゐる。県警によると、二〇一五年に認知症と疑われる行方不明高齢者は九十六人。うち一人が未発見で、発見された中には亡くなつていた人もいる。

市民の関心が高まる中、地域ぐるみの取り組みも進む。福井市と越前市では昨年、一人で歩いてくる認知症らしき高齢者に声を掛け

る訓練が開かれた。福祉施設の職員が高齢者役にふって地域内を歩き回り、参 加した住民が声を掛ける。声掛けのポイントや重要な特徴、顔写真、行きそうな場所などを登録。情報は里閑わる事業所などで共有して検索に活用する。県内では二〇〇七年から始まり、現在は七市二町で計二百六

(藤井生)

認知症の無いのある高齢行方不明者の増加が社会的な問題となつてゐる。県内でも昨年、県警へ行方不明の届け出があったのは九十六人。住民対象の訓練や自治体による認知症高齢者の登録制度が広がつてゐる。

(藤共生)

# 県内広がる取り組み

**認知症**　脳の神経細胞が死んだり働きが悪くなったりすることでも物忘れや妄想、徘徊（はいかい）などの症状が出る。厚生労働省によると、2012年に認知症高齢者は約462万人と推計された。認知症が原因で行方不明になる人も増加しており、警察庁によると、家族などから警察に届けられたのは12年が9607人で、13年は1万322人、14年は1万783人だった。

十人が登録されている。  
一方、市町の取り組みには差がみられる。最多の登録数は昨年七月に始めた敦賀市で八十八人。大野市は七十五人、越前市は五十五人が登録しているが、その他は十人前後に限られる。残る十市町には制度そのものがない。

「声掛け」「登録」で早期発見